

村落社会研究会

への期待

山本 登

村落社会の研究が他々の村落に於ける調査資料に基礎づけられるとすれば、数々に及ぶ日本の村の研究が共同の立場から行われねばならぬことは当然である。その最も共同への第一歩を、おぼせるとするところにこの会の大きな意味がある。その出発にあつて、この研究会に次の二つの点を期待したい。

第一に、調査結果が調査方法に規定

され、しかも多数の研究による多数の村落に向する資料が比較的に検討されねばならないとすれば、第一的であると同時に、比較可能な結果をもたらす調査技術の確立への努力が第一の任務である。従来の研究はあまりにも調査者の任意と主観によって色づけられてはいたかつたが、そして又比較や相関を試みるにあまりに文學的な記述をしていったのではないのか。

第二に、吾々の研究はあくまでも現実的であり予測的でないべからざることである。村落の科学的研究は決して過去の復元をめざすものではない、尤もして予測のためにはそれに依じた研究の方法への反省も考へられねばならない。従来村の調査研究が、取り残された珍らしい村落に指向されて、現代に生きている平均的な村落があまりにも無視されていりたのではないだろうか。互に共通する以上の二点、私はこの研究会に、望むる同業者の社交仲間ではなく、新しい共同をうた出すための基礎作業の遂行を期待している。

(一九五三・三・九 大阪市立大)

